

令和6年度岡山県農林水産総合センター農業研究所試験研究課題評価結果票

<事前評価>

総合評価凡例 5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当
 3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い
 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要

番号	R6-事前-1						
課題名	注目される県内外のブドウ品種に適した栽培技術の確立						
課題の概要	注目される県内外のブドウ新品種について、特性及び課題を明らかにし、現地に先行して本県に適した栽培技術を早急に確立する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	2人	4人	0人	0人	0人	4.3
	有効性	2人	3人	1人	0人	0人	4.2
	効率性・妥当性	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	総合評価	1人	5人	0人	0人	0人	4.2
助言・指摘事項等	<p>1. 新品種の選定は、生産者にとって重要な課題である。栽培の途中でも、生産上の問題点がわかり次第、生産者にお知らせする機会を設けてほしい。</p> <p>2. 適した栽培技術を確立し、栽培上の問題に対する対策を提示する上で、生産者が活用しやすい技術の確立につながることを期待する。</p> <p>3. ニーズもあり、果樹を重要視する岡山県ならではの地道な研究として評価できる。</p> <p>4. 「悪い情報も提供する」といった説明もあった通り、実際の研究から出た県内で普及性が低い新品種を示すことは有益と考える。県内のブドウ品種の多様化や、ブランド力向上に寄与する研究である。</p>						

番号	R6-事前-2						
課題名	県内ブドウ主要品種におけるS-A-B-A処理の適用性の検討						
課題の概要	着色品種に対するS-A-B-A処理の適用性、「ピオーネ」で未検討な作型での使用方法を検討し、着色不良の対策技術を早急に確立する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	2人	3人	1人	0人	0人	4.2
	有効性	2人	2人	2人	0人	0人	4.0
	効率性・妥当性	1人	5人	0人	0人	0人	4.2
	総合評価	2人	4人	0人	0人	0人	4.3
助言・指摘事項等	<p>1. 地球温暖化で問題になっている着色不良を解決できるかもしれない重要な試験である。</p> <p>2. 温暖化対応は待ったなしの状況に至っており、必要な研究である。無加温栽培での成果を早期に現場で適用できるよう、関係機関と連携し、研究を推進いただきたい。</p> <p>3. 着色不良対策として、生産現場からも期待が大きく、広く普及が見込めるものである。</p>						

番号	R6-事前-3						
課題名	準高冷地における加工・業務用キャベツの高品質安定生産技術の確立						
課題の概要	夏どりでは、生理障害が少ない品種の選定、適切な肥培管理技術を明らかにし、越冬作型では、抽苔しにくく結球が安定する定植時期等を検討して、高品質安定生産を図る。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	2人	3人	1人	0人	0人	4.2
	有効性	2人	2人	2人	0人	0人	4.0
	効率性・妥当性	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	総合評価	1人	5人	0人	0人	0人	4.2
助言・指摘事項等	<p>1. 加工・業務用の高品質安定生産のためには、重要な試験である。チップバーンなどの生理障害防止法の開発を進めてほしい。</p> <p>2. 岡山県の栽培に適した品種を選抜し、出荷量の少ない時期の生産量の増加につながるような成果を期待する。</p> <p>3. 試験研究としては品種の選抜とその後の安定生産技術の開発を分けて行った方が効率的な可能性があるが、いずれにせよ、夏どり作型の不足解消や越冬冬作の高品質化に向けた研究は実需者ニーズに沿い、生産者の所得向上を図るものであることから、重要と考える。</p> <p>4. 夏どり作型における高品質安定生産が可能となることで、7月の出荷量の増加が見込めるため、技術が確立できれば、生産現場で広く普及できるので、優先的に実施することが適切と考える。</p>						

番号	R6-事前-4						
課題名	「晴苺」の高品質・安定生産のための栽培技術の開発						
課題の概要	厳寒期の食味低下要因を解明し、対策技術を開発するとともに、低コストで取り組める中休みの軽減技術の効果を明らかにし、良食味で安定出荷できる栽培技術を開発する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	2人	3人	1人	0人	0人	4.2
	有効性	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	効率性・妥当性	0人	5人	1人	0人	0人	3.8
	総合評価	1人	5人	0人	0人	0人	4.2
助言・指摘事項等	<p>1. モサモサ感などの食味の改善が最も重要と考えられるので、この対策法の開発に取り組んでほしい。</p> <p>2. 食味低下要因に対する対策技術については、コスト面も含めて、生産者が利用しやすい技術の開発を期待する。</p> <p>3. 実需者からの要望に応え、ブランド力を高めることを目的としており、実施すべき研究である。原因究明から開始であるが、仮説もあるので、対策技術の開発を期待する。</p> <p>4. 離水率で、イチゴの品質を可視化するという研究視点が興味深い。糖度などと同様に、数値でイチゴの食感を表示できれば、消費者へのアピールにもつながるのではないかと。他の果実や野菜類などにも応用できれば、なお可能性が広がる。</p>						

番号	R6-事前-5						
課題名	オリジナルリンドウの高温耐性の把握						
課題の概要	夏季高温な農業研究所本所（標高23m）でオリジナルリンドウを栽培し、生育特性及び高温耐性を明らかにする。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	2人	4人	0人	0人	0人	4.3
	有効性	1人	4人	1人	0人	0人	4.0
	効率性・妥当性	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	総合評価	0人	6人	0人	0人	0人	4.0
助言・指摘事項等	<p>1. オリジナルリンドウの普及や生産者を増やすためにも、高温耐性を把握するのは非常に重要である。花色やその他の切り花特性にも留意しながら進めてほしい。</p> <p>2. 栽培希望者の多い市街地近郊の低標高地での栽培に適した品種を提案できると産地の拡大と担い手の確保に大きくつながることが期待されるため、試験実施することが適当である。</p> <p>3. 結果については品種次第というところもあるので、今後の県オリジナル品種の育成に役立つ遺伝的知見も得られれば良いと思う。</p>						

注意事項

- ① 各評価委員の評価内容を基に、重複する評価内容を取りまとめて記載する等、簡潔にとりまとめてください。また、この資料は、HPで公表する予定ですので、特定の個人を指す事例や特許取得等に支障がある内容は表現を改める等、個人情報の保護や知的財産権の取得等に支障がないよう、配慮してください。
- ② 評価結果欄は全ての項目について、得点を付けた人数を記載し、平均点を少数第1位で記載してください。

令和6年度岡山県農林水産総合センター農業研究所試験研究課題評価結果票

<中間評価>

総合評価凡例 5：優先的に継続することが適当 4：継続することが適当
 3：計画変更して継続することが適当 2：継続の必要性が低い
 1：中止すべきである

番号	R6-中間-1						
課題名	岡山県における高温耐性品種の選定基準の作成と気候変動に対応した水稲品種の選定						
課題の概要	本県が必要とする高温耐性の強度を明らかにするとともに、低温年にも安定した生育、収量及び品質が見込まれる気候変動に強い品種を選定する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成可能性	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	〃（阻害要因）	1人	2人	3人	0人	0人	3.7
	必要性	5人	1人	0人	0人	0人	4.8
	有効性	2人	4人	0人	0人	0人	4.3
	効率性・妥当性	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	総合評価	2人	4人	0人	0人	0人	4.3
助言・指摘事項等	<p>1. 地球温暖化が進むなか、登熟時の異常高温が品質に多大な影響を与える。他の研究機関とも連携し、データの相互利用を進めて、高温化でも品質が高い品種の選定を進めてほしい。</p> <p>2. 岡山県における高温耐性品種の選定基準の作成につながる重要な検討である。引き続き実際に奨励品種への採用につながるような取り組みを進めていただきたい。</p> <p>3. 着実に成果を出している。選定基準と検定時の温度データの差はあるが、本来目的の高温登熟耐性品種の選定は予定通り進んでおり、継続して研究を実施すべきと考える。</p> <p>4. 高温による玄米品質の低下は、県下全域で問題となっており、生産現場からの要望も高いので、優先的に継続することが求められる。</p>						

番号	R6-中間-2						
課題名	水田転換畑におけるモモ安定生産のための土壌改良マニュアルの作成						
課題の概要	モモ導入の可否判定や排水不良要因を診断するための園地診断手法、安定生産のための排水対策・土壌改良技術を確立し、現地での実践に向けたマニュアルを作成する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成可能性	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	〃(阻害要因)	1人	2人	3人	0人	0人	3.7
	必要性	2人	1人	3人	0人	0人	3.8
	有効性	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	効率性・妥当性	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	総合評価	1人	5人	0人	0人	0人	4.2
助言・指摘事項等	<p>1. 岡山特産の白桃の生産安定のための試験であり、重要である。新規に開拓する園地の排水対策を、県主導で進める方策が望まれる。</p> <p>2. 非常に要望の多い課題の1つであるため、活用しやすい成果につながることを期待する。</p> <p>3. スマート機器を用いた土壌水分マップの作成や、土壌水分の分布に応じ、エンジンオーガーを用いて簡易なすき床破碎を行い改善するなど注目すべき成果が出ており評価できる。</p> <p>4. 水田転換畑を利用した桃の栽培面積拡大は岡山県の振興計画にのっとるもの。適地を選定する上で土壌改良マニュアルを作成し、適地判定が有効に行えれば、耕作放棄地解消にもつながると期待できる。</p>						

番号	R6-中間-3						
課題名	夏秋雨除けトマト栽培における安定生産技術の開発						
課題の概要	裂果が少なく収量が安定する穂木・台木品種の組合せを選定し、裂果対策などの安定生産技術を確立する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成可能性	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	〃(阻害要因)	1人	2人	3人	0人	0人	3.7
	必要性	1人	4人	1人	0人	0人	4.0
	有効性	1人	4人	1人	0人	0人	4.0
	効率性・妥当性	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	総合評価	1人	5人	0人	0人	0人	4.2
助言・指摘事項等	<p>1. コストがかかっても、裂果を防ぎ、可販果率を高める接木苗を利用することが望ましいことは理解できる。これを生産者に取り入れていただくための説明が必要であると思われる。</p> <p>2. 引き続き、栽培上の課題解決につながるような検討を期待する。</p> <p>3. 品種と台木と摘果処理の組み合わせで、地道にデータを取得しており、最適解を得るため、試験を継続し、生産者の所得向上につながることを期待する。</p> <p>4. 「桃太郎みなみ」「麗月」の台木利用および摘果による増収技術の総合的実証を行う必要があるため、継続して実施することが適当である。</p>						

注意事項 事前評価と同じ

令和6年度岡山県農林水産総合センター農業研究所試験研究課題評価結果票

<事後評価>

総合評価凡例 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた
 3：一定の成果が得られた 2：見込んだ成果を下回った
 1：成果が得られなかった

番号	R6-事後-1						
課題名	「きぬむすめ」の高品質安定生産技術の確立（単県） 極良食味水稻「きぬむすめ」のスマート農業による安定生産技術の確立（重点）						
課題の概要	リモートセンシング等の省力的な生育診断技術を用い、収量、食味及び品質のバランスの取れた「きぬむすめ」の安定生産技術を確立し、本県水稻生産農家の所得向上に資する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	2人	1人	3人	0人	0人	3.8
	有効性（効果）	1人	2人	3人	0人	0人	3.7
	有効性（目的以外の成果）	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	効率性・妥当性（費用対効果）	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	効率性・妥当性（計画）	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	成果の活用・発展性	2人	4人	0人	0人	0人	4.3
	総合評価	2人	3人	1人	0人	0人	4.2
助言・指摘事項等	1. 非常に実用化が見込める試験である。論文作成など、研究成果の公表を進めてほしい。 2. 開発された技術を生産者が利用しやすい形で実用化につなげていただきたい。 3. 計画通り、理論的に研究が遂行され、明確な結果が得られたことを評価する。研究が終わった後もこの成果の社会実装を進めてほしい。また、論文を日本作物学会の和文誌等に投稿することを勧める。 4. ドローンを用いた効率的な生育診断実証試験であるため、大規模経営体での活用が可能であり、普及性が高い。 5. 研究は他の都道府県での展開も可能ではないか。データを農家が取って、分析は他機関で行うといったことが可能であれば、農家の負担が減らせると考える。						

番号	R6-事後-2						
課題名	モモ新品種「白皇」、「白露」の高品質安定生産技術の開発						
課題の概要	両品種の生理障害の低減、収穫適期の判定技術を確立することで、高品質な果実を安定して生産する栽培技術を確立する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	0人	1人	5人	0人	0人	3.2
	有効性(効果)	0人	1人	5人	0人	0人	3.2
	有効性(目的以外の成果)	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	効率性・妥当性(費用対効果)	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	効率性・妥当性(計画)	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	成果の活用・発展性	0人	2人	3人	1人	0人	3.2
	総合評価	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
助言・指摘事項等	<p>1. 今後は、「白皇」における強遮光果実袋を被袋した直接収穫判断方法の開発や、収穫量確保のため栽培方法の開発にチャレンジしてほしい。</p> <p>2. 生産者への情報提供を進め、成果を活かして安定的な生産につながるような取り組みを引き続きお願いしたい。</p> <p>3. 高品質安定生産に資する知見が得られた。</p> <p>4. 「白皇」の果実袋による生理障害の軽減効果については、後継課題で費用面や農家の負担面も含めて追加検討が必要と考えられる。</p>						

番号	R6-事後-3						
課題名	加温栽培「シャインマスカット」における寡日照条件下での糖度上昇促進技術の開発						
課題の概要	7月出荷作型において、糖度18度を上回る果実を安定して生産できる技術を確立する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	有効性(効果)	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	有効性(目的以外の成果)	0人	5人	1人	0人	0人	3.8
	効率性・妥当性(費用対効果)	0人	2人	3人	1人	0人	3.2
	効率性・妥当性(計画)	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	成果の活用・発展性	0人	5人	1人	0人	0人	3.8
	総合評価	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
助言・指摘事項等	<p>1. LED光源の効果は理解できるが、コストに合わないため、何か他の技術開発はできないだろうか。</p> <p>2. 開発した技術を円滑に情報提供し、技術の活用につなげていただきたい。</p> <p>3. 初期の目標は達成したと考える。LEDについてはコストの問題があり、現時点で実用化は困難かと思うが、その他の成果を活用して、糖度上昇を図っていただきたい。また、後継課題での検討も行われるようなので、研究成果の創出を期待する。</p> <p>4. 3種類に分類した「未熟粒混入症」と「長日処理」については、後継課題で追加検討が必要と考えられる。</p>						